



校歌

作詞 寺田 彰司

曲 旧制一高寮歌
「アムール川」

一 千秋の雪積もりたる
富士の高嶺の雄姿ぞ
幾万代の後までも
変わらぬ誠の鑑なる
奔流百里石をかみ
巖に激しいや増しに
勢加わる利根の水
これ剛健のためしなり
あ、此の山と此の川と
日夕眺むる健男児
自然の示す巨人をば
如何に学ばん習わなん
白幡台の雪月花
四季の折々常総の
平野にしるく輝くは
高潔無垢の別天地
石段登る六十余
一足ごとに踏みかため
心を鍛え身を練りて
忠良有為の基たてん

② 1979.9.5



① 1962.5.8



④ 2023.8.21



③ 1989.10.9

目次

会長挨拶	2
校長挨拶	2
令和5年度総会報告	3
令和6年度総会案内	5
恩師を訪ねて	6
同窓会便り	7
母校の想い出	7
母校と私の人生	14
トピック①	16
トピック②	17
同窓会HP紹介	18
進路状況	19
附属中学校	20
高校部活動状況	21
令和5年度定通大会	23
読者プレゼント	24
編集後記	24

竜ヶ崎第一高等学校内
白幡同窓会事務局

〒301-0844 龍ヶ崎市平畑 248
TEL 0297-62-2146 FAX 0297-62-9830
ホームページ <http://www.shirahata.sakura.ne.jp>
メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com
印刷所: 倉沢印刷(株) 題字: 秋山海堂 (中 21 回)
表紙写真: ①②③は国土地理院 ④は小嶋吉浩 (高 31) 様提供

ご挨拶



白幡同窓会会長
小倉 培夫

白幡同窓会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は本会並びに母校充実発展のため深いご理解と温かいご支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

本会会員は二万六千余名を数えます。その方々が国内外において素晴らしい活躍をされており、白幡同窓会並びに竜ヶ崎第一高校生・附属中学生が誇りとすることとさせていただきます。

令和五年四月八日（土）、竜ヶ崎第一高等学校体育館において同窓会総会が開催されました。総会は在校生の吹奏楽部による素晴らしい演奏と応援団及びチアリーダーからのエールで総会を盛り上げていただきました。

尚、本年は役員改選の年に当たり、染谷信洋前会長の後任として、私がご推挙いた

きました。浅学非才な私にとって重責であり身の引き締まる思いであります。

この大役を、皆様のご指導をいただき、発足以来の足跡を辿りながら、役員一同力を合わせ精一杯務めてまいります。会員の皆様のご支援ご協力をお願いします。

ご勇退されました前会長の温かいお人柄と強力なリーダーシップのもと創立百二十年記念式典を始め数々の事業を成功させ、さらなる飛躍を遂げました。長年のご貢献に深く敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。総会の審議・承認事項等については「総会報告」をご覧ください。

同窓会活動は会報編集、HP運営、白龍祭、企画の4つの委員会を中心に行っています。

お陰様で会報やHPは年々充実しています。三年ぶり開催の白龍祭には同窓会が販売した焼き餅に長蛇の列ができ、大盛況でした。売上金は生徒会に寄付いたしました。

本会は文武両面にわたって、関東、全国大会に出場する生徒に対して「奨励金」を贈呈しています。今年も、壮

行会にて贈呈してまいりました。

毎年十二月に発行しています会報の発送の際には、同窓生の皆様に「協力金」をお願いしております。皆様の母校発展への熱い思いから千二百余名の方々から協力金をお受け致し母校支援のために活用いたしております。協力金をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

母校におかれましては、創立以来の「文武両道」の校是、「誠実」「剛健」「高潔」「協和」の校訓、本年の学校案内に掲げた「問う力」の一步先へ、多様な学び場で想像力を育む、しなやかで強い個を育てる等の教育目標の下、各分野で活発な活動を展開しています。十月にはSTEMオリンピック日本代表に選出され、本校生徒五名がシンガポールへ派遣されました。大会は「ロボット競技」と「英語でのプロジェクト発表」などを行って総合点を競う形式で、全世界より一九一カ国の高校生が参加しました。

この機会に、「不易流行」「竜ヶ崎一高の根底に流れる不易なもの」とは何かを自問する契機になりました。

今、私たちは、科学技術発展の中で便利さに慣れ過ぎています。物質的豊かさの中で困苦欠乏に耐える力が弱くなっています。高齢化や核家族の中で親子関係の情などにも変化をきたしたようです。これからの社会は、変化の多い不透明な厳しい時代になると言われていきます。何が起るか分かりません。思いもしないことが起こるかも知れません。しかし、時代が大きく変化しても変わらない本質的なものがあります。

本同窓会は「竜ヶ崎一高の根底に流れる不易なもの」を引き継ぎ、次世代に承継する責務があります。皆様の尚一層のご協力をお願い申し上げます。

結びに、時の流れは、川の流れのようであって早いものです。絶え間なく未来の私たちから自分の前にやってきて、今、現在となり、そして過去へと流れて消えて行きます。留まることを知りません。

「心を鍛え 身を錬りて 忠良有為の基たてん」これは校歌の五番の最後の歌詞です。「心身一如のライフスタイルを構築し、善良で役立つ、有能な人材の基礎をつくる」

という本校の伝統のひとつであります。この伝統の下、今まで素晴らしい歴史を刻んでこられた皆様の献身的なご努力に深く敬意を表し「竜一高」「白幡同窓会」がさらなる充実・発展することをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

地域に根差した「二高」づくり



校長
太田 淳一

コロナ禍の状況が緩和する中、みなさまご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より学校運営に格別のご理解、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、地域と一体になり、自分ごととして社会を考えられる真の「一高生」育成に向け、竜一の新たな学校づくりが続いております。

地域課題解決を目指す探究活動においては、恒例となつた附属中生のフィールドワー

ク「りゅうさんぽ」の行き先を今年度から5カ所(環境・国際・交通・街おこし・観光)に拡充しました。興味に応じた柔軟なテーマ選びを可能とすることで、地域社会が生徒にとつてさらに身近なものとなることを期待しています。これから年度末まで、生徒たちは各々がテーマとして選んだ課題の解決に取り組んで参ります。一部のみなさまには、インタビュ等でお世話になることがあるかと存じます。どうぞよろしく願います。

コロナ前の規模に戻った先日の「龍ヶ崎の祭り」では、流経大とともに実行委員会の末席に加えていただき、生徒主体の活動を種々提案させていただきました。昨年に続いての「撞舞」ライブ配信は、地元の方のご厚意で撞柱目の前の場所をお借りすることができ、大迫力の映像を実況とともにお届けすることができました。他の生徒は広報役として、10代の目線から見た行事を写真・動画に残しました。また別の生徒は、域外からの訪問者のための案内役を務める中、海外の方に対する英語での案内にも挑戦しました。

この地域にはさまざまな国籍の方が暮らしていますが、残念ながらコミュニケーションは分断し、共生に向けた道のりはまだ遠い状態にあります。最初は怯えて声をかけることもままならなかった生徒が、徐々に壁を越えていく様子を見ていて、教室の外における学びの力と、10代でも課題解決が可能であるという事実を、改めて実感した次第です。

さらにバスケットボール部・陸上部の生徒が、神輿や獅子の担ぎ手として地域の青年たちとともに汗を流しました。この中には特色選抜の生徒も含まれ、「学校生活の中で強いリーダーシップを発揮する」という出願要件にしっかりと行動で応えてくれました。

このように地域づくりと探究学習が一体化した学校づくりを進める中、地域のあちこちで応援してくださる代々の卒業生のみなさまの存在が、学校・生徒にとって何よりの支えとなっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。一方、卒業生でない地域のみなさまからは、「竜一は壁が高い」というお声もいただきます。「声をかけて

くれれば汗をかくのに水臭い」という前向きな意味です。もともと竜一はお寺の境内で始まった学校です。地域の「一高さん」として、出自や文化を問わず受け容れるお寺のような存在を目指します。まずまず地域との連携を密にしていくなかで、引き続きのご支援、心よりお願い申し上げます。



@ryugasaki_TanQ



@ryugasaki_tanq



令和5年「撞舞」ライブ配信

総会報告

令和五年度の白幡同窓会総会は、令和五年四月八日、竜ヶ崎一高体育館で開催されました。昨年は感染対策のため行われなかった恒例の応援団・チアリーダーによる校歌・応援歌斉唱、吹奏楽部の演奏披露もあり、総会に花を添えました。また、総会出席者湯吞プレゼント抽選では、校章入

り白萩軸錦湯吞が当選者三名に贈られました。鈍色の空でしたが、参加者総勢百五名による総会になりました。総会次第は次のとおりです。

- 一 開会の言葉
- 二 校歌・応援歌斉唱
- 三 吹奏楽部の演奏
- 四 会長挨拶
- 五 校長挨拶
- 六 記念品贈呈
- 七 招待学年代表挨拶
- 八 総会出席者湯吞プレゼント抽選及び贈呈
- 九 新任者紹介
- 十 議事
 - (一) 令和四年度事業報告・決算報告
 - (二) 令和四年度会計監査報告
 - (三) 役員改選
 - (四) 令和五年度事業計画案・予算案
 - (五) 学校現況報告
- 十一 閉会の言葉

【本部役員】

会長 小倉 培夫 (高20)
 副会長 関口 広行 (高26)
 倉持 正男 (高27)
 大和佐知雄 (高28)
 有川 保 (高33)
 山田 實 (高26)
 赤塚 誠 (高30)

【校内幹事】

幹事長 寺田 義弘 (高40) 17名

顧問

齋藤 佳郎 (高8)
 染谷 信洋 (高15)

【校外幹事】

幹事長 山崎 睦 (高31)
 副幹事長 櫻井 篤美 (高29)
 幹事 服部 俊夫 (高25)
 篠塚 文男 (高28)
 川口 浩己 (高29)
 大野 雅之 (高30)
 羽成 邦男 (高30)
 大野 雅彦 (高31)
 小嶋 吉浩 (高31)
 福田 道義 (高31)
 本田 仁子 (高31)
 岡田 晋 (高32)
 宮本 順紀 (高32)
 霜村 裕通 (高33)
 武田 早苗 (高33)
 磯山 佳美 (高34)
 大野 金人 (高35)
 坪井 龍夫 (高35)
 福島 正明 (高35)
 海田磨起代 (高36)
 松本 光弘 (高36)
 岩崎 卓士 (高37)
 菊地 耕 (高37)
 具志堅秀和 (定56)

令和 4 年度 白幡同窓会収支決算書			令和 5 年度 白幡同窓会予算書		
収入総額 9,492,853 円			収入総額 7,318,000 円		
支出総額 6,056,908 円			支出総額 7,318,000 円		
差引残額 3,435,945 円（次年度へ繰越）					

(収入の部)			(単位：円)			(収入の部)			(単位：円)		
科 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要	科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較		摘 要
			増	減					増	減	
1 繰越金	5,434,846	5,434,846			令和 3 年度より繰越 会計用 5,434,846円 常陽銀行（普）	1 繰越金	3,435,945	5,434,846		1,998,901	令和 4 年度より繰越 内訳 会計用 3,435,945円 常陽銀行（普）
2 入会金	1,488,000	1,464,000		24,000	全日制 6,000円×232名=1,392,000円 定時制 6,000円×(3+9)名=72,000円	2 入会金	1,482,000	1,488,000		6,000	全日制 6,000円×235名=1,410,000円 定時制 6,000円×(8+4)名=72,000円
3 協力金	2,800,000	2,439,000		361,000	ゆうちょ銀行扱い分 324件 703,000円 コンビニエンスストア入金分 868件 1,736,000円	3 協力金	2,400,000	2,800,000		400,000	協力金 2,000円×1,200名=2,400,000円
4 雑収入	54	155,007	154,953		普通預金利息 35円 過年度協力金 154,972円	4 雑収入	55	54	1		預金利息等
合 計	9,722,900	9,492,853	△ 230,047			合 計	7,318,000	9,722,900	△ 2,404,900		

(支出の部)					科 目					前年度 予算額		増		減		摘 要	
科 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要	1 事 務 費	1,200,000	1,200,000									
			増	減													
1 事 務 費	1,200,000	731,130		468,870													
1 消 耗 品 費	50,000	1,754		48,246													事務用品、定期残高証明書代
2 支 払 手 数 料	280,000	236,176		43,824													郵便局支払手数料 57,162 円 サラト扱い手数料 178,464 円
3 印 刷 通 信 費	500,000	390,656		109,344													同窓会通信切手、葉書代
4 広 報 費	170,000	10,544		159,456													ホームページ用運用諸費
5 旅 費 交 通 費	200,000	92,000		108,000													役員会・委員会交通費等
2 事 業 費	5,520,000	4,432,488		1,087,512													
1 総 会 費	450,000	24,160		425,840													
2 会 報 発 行 費	2,900,000	2,918,637	18,637														会報 34 号印刷代 796,510 円 会報郵送代 2,122,127 円
3 会 議 費	170,000	45,288		124,712													役員会等経費
4 招待学年記念品費	400,000	356,950		43,050													
5 卒 業 記 念 品 費	200,000	139,555		60,445													卒業証書ファイル購入代
6 部活動奨励金等	900,000	580,000		320,000													※ 20,000 円 +5,000 円 ×出場人数 (10 万円 限度) 関東 (ソフトテニス、 射撃、弓道、吹奏楽、 軽音楽、水泳) 全国 (書道、射撃、 弓道)
7 学校行事補助	300,000	167,898		132,102													SSH 関連事業経費
8 国際交流基金	200,000	200,000															国際交流基金
3 慶 弔 費	100,000	0		100,000													
4 基 金 積 立 金	500,000	500,000															創立130周年式典に 向けての積立
5 予 備 費	2,402,900	393,290		2,009,610													制服展示ケース制作 費、招待学年懇親会 補助金
合 計	9,722,900	6,056,908	△ 3,665,992														

科 目	予算額	前年度 予算額	増	減	摘 要
1 事 務 費	1,200,000	1,200,000			
1 消 耗 品 費	50,000	50,000			事務用品、定期残高証明書代
2 支 払 手 数 料	280,000	280,000			協力金振込手数料
3 印 刷 通 信 費	500,000	500,000			切手・葉書購入、印刷代等
4 広 報 費	170,000	170,000			ホームページ用運用諸費
5 旅 費 交 通 費	200,000	200,000			役員会交通費等
2 事 業 費	4,920,000	5,520,000		600,000	
1 総 会 費	150,000	450,000		300,000	総会経費補助
2 会 報 発 行 費	3,000,000	2,900,000	100,000		会報 35 号発行印刷、発送料
3 会 議 費	170,000	170,000			役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	400,000		400,000	
5 卒 業 記 念 品 費	200,000	200,000			卒業記念品代 (卒業証書ファイル)
6 部活動奨励金等	900,000	900,000			部活動奨励金等
7 学校行事補助	300,000	300,000			SSH関連事業経費、高大連携経費等
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流補助
3 慶 弔 費	100,000	100,000			弔慰金等
4 基 金 積 立 金	500,000	500,000			創立130周年式典に向けての積立
5 予 備 費	598,000	2,402,900		1,804,900	制服展示ケース制作費、招待学年懇親会補助金
合 計	7,318,000	9,722,900	△ 2,404,900		

科目間の流用を承認願います。

上記のとおり提案いたします。

令和5年3月19日

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会会長

科目間の流用を認める
基金積立金（常陽銀行） 4 年度末積立額 6,003,511円
合 計 6,003,511円

上記のとおり報告いたします。
決算報告日 令和 5 年 3 月 19 日
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会会長 染谷 信洋

監 査 書

令和 4 年度収支決算について、監査しましたところ証拠書類、通帳等すべてにおいて正確にして適正であることを認めます。
令和 5 年 3 月 19 日 監事 山田 實 @
監事 有川 保 @

令和6年度 同窓会総会のご案内

令和6年度 白幡同窓会総会

- 1 日時 令和6年4月6日（土）午後2時 開会予定
- 2 場所 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 体育館

令和5年度の白幡同窓会総会がこれまでの総会形式で行うことができましたことと参加者数が100名を超えましたことを大変有難く存じます。同窓会事務局としましては、総会参加者数が100名を超えることを目標にしていたので、これを弾みにして総会参加者が一人でも増える企画等を考案していきたいと考えています。同窓生の皆様の総会へのご参加をよろしくお願い申し上げます。

令和6年度の総会については、4月6日（土）午後2時から竜一高体育館にて開催する予定です。

今回ご案内の往復葉書を差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、令和6年度の招待学年である高校17回・27回・42回・57回・67回及び定時制13回・23回・38回・53回・63回の卒業生全員になります。

なお、総会の案内が届かない同窓生の方々の参加を大歓迎いたします。参加ご希望の方は下記同窓会メールアドレス、または、竜一高にご連絡ください。

オリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」の贈呈

招待学年の出席者の方と70歳以上の出席者の方（1回限り）には、陶芸家・植竹敏氏（高27回）作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

なお、令和5年度より、総会に出席された80歳以上の同窓生の方には、もれなくオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

また、招待学年以外の出席者を対象に、抽選で3名の方に上記湯呑を贈呈する企画がありますので是非総会にご参加ください。

同 窓 会 懇 親 会

新型コロナウイルス感染拡大前に開催していました総会後の「同窓会懇親会」につきましては実施しないことになりました。

それに代わって、「招待学年単独による懇親会」を開催する場合については、同窓会本部より3万円の補助金を1回に限り、給付することになりましたのでお知らせします。

なお、日時及び場所等については招待学年幹事等で決めていただき、同窓会本部（下記メール）にご連絡ください。同窓会役員1名がその懇親会に参加させていただきます。

◎上記のことについて、ご不明な点があれば下記にご連絡ください。

白幡同窓会メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com

新企画

恩師を訪ねて

大野英二先生



会報の新企画として、思い出深い先生を訪ねて、当時と今を語っていただくコーナーを設けました。

第一回目は、大野英二先生です。これまでの会報の「母校の思い出」の中に一番多く登場した思い出の恩師が大野先生です。

今年、八十三歳になられた大野先生にお会いし、いろいろと興味深いお話を聞くことができましたのでご紹介いたします。

大野先生のプロフィール

竜一（11回）出身で大学卒業後、二年間の中学校勤務を経て、水海道一高で高校の英語教師をスタートさせます。二十九歳で竜一に赴任し、人間教育に情熱を燃やす若き青

年教師として、二十年間、竜一の成長を熱心にサポートしてこられました。

複数の高校で教頭（竜一高を含む）や校長を務められた後、藤代高校の校長を最後に退職されました。藤代高校在任中に、初めての甲子園出場（春）と初めての東京大学現役合格が実現しました。

退職後は、利根町の教育長として六年間小中学校の教育の充実発展及び地域文化の向上に尽力されました。

現在は地域で俳句の会やグラウンドゴルフなどを仲間と楽しんでいきます。

七十歳代には、たくさん紫陽花が植られた庭にビオトープを作り、蛸やメダカを育てて近くの小学校の自然観察学習の手伝いをしていました。



大野邸の紫陽花庭園

竜一の教師として

「私が竜一の生徒の時に、特に学年の先生方のまとまり、睦まじさを感じ、それが生徒の我々にとっても心地よかったのです。そのような思いの母校に勤務できたことは本当に幸せでした。生徒には後輩としての同僚意識を持ち身近に感じられました。今思うと自分が生徒であった時と教員として生徒たちと分かち合った思い出が交錯してしまう部分があります。『千秋の雪積もりたる・』の校歌を歌うと『竜一高』という熱い思いが甦ってきます。」

英語教師として

「竜一は基礎力のある集団。様々な要素・可能性を持った生徒集団です。そういう生徒に授業をするのは喜びであり、誇りでもありました。AIの時代を迎えた今、あの頃の授業は遠い昔になりました。」

英語の授業では冒頭の数分間、日常の出来事などを英語で紹介し、できるだけ教科書以外の英語にも慣れてもらえるように工夫しました。このことについて会報に記事を書いてくれた卒業生がいます。現在はアメリカの大学の教授になっている女性ですが、趣

味のバードウォッチングなどについて楽しそうに英語で話す私の姿に、『自分も大野先生のような先生になりたい』と思い、英語を学んできた。今の私の授業はあの時の大野先生の授業そのものです。』と書かれていました。教師にとってこれ以上の喜びはありません。」

油絵の趣味について

「油絵を始めたのは、水海道一高に勤務してからで、ある時、取手市で絵の公募展があり、それに応募した時、その審査員が二科会理事の服部正一郎（旧中21回）画伯でした。そして二科展に出品するよう勧められました。」



二科展 入選作品

五回入選したので、本気で画家になれるかも知れないと思います。自宅にアトリエを作りました。（笑）」

俳句の趣味について

「私は自然が好きで俳句を始めて十数年になります。利根町は小林一茶が三百日近くも逗留したという俳句が盛んな町です。」

現在も毎月三十数名で句会をもっています。いろいろな人の俳句に触れることができるのはとても楽しいことです。」

大野英二先生詠

水仙を添えて

心の正座かな

茶の花のこぼれて

余生いとしかり

大野先生からのメッセージ
「退職の挨拶で全校生徒職員を前に『人生は仲間たち』と言いました。八十三歳の今、『仲間は生きる力である』という思いをますます強くしています。無機質になりがちなこの世の中です。共に生活を豊かに楽しめる良き仲間を。」

（文責 倉持 正男）

同窓会便り

「ちようどよい匙加減」

―第二六回卒業生―

同窓会開催報告―

第二六回卒業生はなんて仲が良く、その絆は本当に素晴らしいものだ、私はしみじみ感じます。「ちようどよい匙加減」があるからこそ、ここまでの絆を築き上げることができたのだと思います。高校を卒業してからもう五〇年、半世紀も経ったなんて、誰もが信じられないことでしょう。もうすぐ七〇歳になる年齢にもかかわらず、仲間たちと一緒に酒を酌み交わし、楽しそうに笑い合っている姿を見ると、同窓生たちがこれまでに経験した人生が、紆余曲折、多様であったことは十分に理解しています。が、これまで「ちようどよい匙加減」の人生を送ってきたからに違いありません。

今回の竜ヶ崎第一高等学校第二六回卒業生同窓会は、令和五年十一月十一日に牛久シャトーを会場に、斉藤佳郎先生、市毛正道先生、中根宏先生の三名の恩師の先生方、そして、私たち第二六回卒業生は五十八名の参加があり、



盛大に開催されました。高校の時の思い出や今の自分の状況などで話が盛り上がり、お酒が適度に入っていることもあり、どんなに話しても話し足りません。会場のいたるところで旧交を温める姿が見られました。最後に校歌を声高らかに歌い、楽しかった同窓会は名残惜しさを感じながら終了となりました。

次回はもっと多くの同窓生の参加を期待したいと思っています。それまで元気に生きていきましよう。(赤石 守)



高校39回卒同窓会のお知らせ

昭和62年3月卒業(高39回生)の皆さまに学年同窓会開催のお知らせです。

卒業して37年が経ち、久しく同級生に会っていない人も多いと思います。そこでこのたび学年全体での同窓会を企画することになりました。開催日は2024年10月5日(土)に決定しており、場所・会場・時間などは今後の幹事会で決めていくことになっていきます。当日は、在学当時の先生方にもご出席頂けるよう声掛けをしていく予定です。ので、楽しみにして頂きたいと思います。開催時期が近づきます。たら詳細案内を出しますので宜しくお願いします。

ここに掲載した写真は2023年8月26日に、SNS等でつながった同級生27人が集まった時のものです。久しぶりの再会はもちろん、ほぼ初対面という人同士でも大いに盛り上がりました。やはり高校3年間で共に過ごしたということはそれだけでお互いの距離感を縮めてくれるものなんだな、とあらためて実感しました。この楽しい時間をもっとたくさん同級生と共有したいと思い、幹事一同、皆に楽しんでもらえる同窓会を目指して活動を開始しています。また、この時の出席者つながり「39会」というLINEグループに同級生が続々と集まり100人以上のグループになっています。来年10月の同窓会はより一層盛り上がることで間違いありませんので、出来るだけ多くの皆さまにご出席頂きたいと思っています。

最後にLINEグループ参加のお願いです。前述した「39会」参加用のQRコードを掲載しましたので、つながりのある同級生も誘って是非ご参加をお願い致します。「39会」は



母校の思い出

暑かった白幡台



高 17 回
米田 隆泰

只今の外の気温は38度です。連日の猛暑に閉口しております。そんなところへ竜一白幡同窓会より大きな封書が届きました。丁寧な手書きの宛名に恐縮して開封しました。会報への原稿依頼でした。自分は満77歳、竜一に在籍したのはもう60年も昔であります。先ず浮かんだ所感は60年前こんなに暑くありませんでした。でもやはり暑かった当時の風景が蘇りました。

小さな田舎の分教場から5人の仲間と入学しました。井秀才に見えたものです。当時

同級生なら誰でもWelcomeな気軽に入れるLINEグループで、同窓会の情報発信もしています。是非この機会にご参加頂き同級生のつながりを更に広げていければと思いますので、ご協力宜しくお願い致します。(酒井 孝)

の始業の合図はサイレンでした。驚きましたね。母からよく聞かされたあの空襲警報で授業開始です。牧野先生の英語の授業です。先生は始業前に教室の入り口に立っておられます。サイレンが鳴ると同時に入室、教壇に立たれた先生は即座に出席簿にチェックされます。サイレンが鳴り終わるまでに着座していない者は遅刻です。次いでヒアリングの書取テストがあります。10分後に回収され、後程珍答迷答の講評があります。それはそれは緊張の連続でした。

上野先生の歴史の授業です。先生は板書しながら授業します。見ていないと思ひ居眠りするとか叱声が飛びます。後頭部に目があるのかと思ひました。でも親切な授業でした。石神先生の白衣を翻す姿も目に浮かびます。いつも物化教室におられました。訛りがきつくて難渋しました。次々と個性豊かな先生方の面影が浮かびます。

三年時に東京オリンピックが開催されました。先輩の岡野さんが柔道中軽量級で金メダルに輝きました。凱旋された岡野先輩はクラス毎の記念写真の中央に着座下さいました。

卒業時に白幡台の隣の山に流通経済大学が創立されました。推薦で入学できるということで何人か進学しました。一期生として活躍されておられることと思います。暑さを忘れて思い出すままに綴らせて頂きました。

挫折を乗り越えて



高 17 回
栗山 正明

私は昭和37年に竜一高に入學し、剣道部に入部した。剣道部の練習は運動神経の鈍い私にとって体力的に非常に厳しかったが、多くの友人や顧問の井坂先生のお陰で剣道部の生活を楽しむことが出来た。特に夏の剣道部合宿では体力の限界というものを何度も感じるほど大変なものだったが、この厳しい時期を乗り越えたことで、体力的にも精神的にも自分自身の成長を感じた。しかし、冬の練習中に相手竹刀の先皮が外れて竹刀の一部が防具の面金の間を通過して臉を強打し、左眼の視力が急激に低下した。これが原因で剣道部を退部すること

になった。そのことで私の中心にあった生き甲斐を喪失し、挫折感に襲われた。時間を持て余していたこの時期は、親に内緒で大型自動二輪の免許を取得して暴走族に傾倒したり、映画館に入り浸ったりと、荒んだ気持ちになっていた。二年生になった頃、同じクラスのSさんやHさん、剣道部仲間だったYさんら、多くの友人の助言やサポートもあって、エンジン付きの模型飛行機的设计製作に熱中するようになり、更には自動車解体屋で買ったスクーターのエンジンを改良したゴーカート製作などに没頭するようになった。このように友人の支えで新たな生き甲斐を見つけ、挫折感を乗り越えられたと思う。

また学業の面では、数学の飯野先生、英語の牧野先生、国語の伊藤先生、日本史の上野先生など、多くの先生方にそれぞれに特徴ある面白い授業をして頂いた（日本史は赤点をとって追試験となったが）。特に物理の石神先生には授業終了後にも物理教室の後ろにあった先生の部屋に入りこんでいろんな疑問点をぶつけ、先生から丁寧に説明していただいたことを昨日の

ように思い出す。ここでの石神先生との交わりが、その後に私が研究（核融合）の道に進むきっかけとなった気がする。

竜一高は、辛さと楽しさが混在した私の無鉄砲な時代を過ごさせて頂いた学校であり、多くの友や先生方に接することで私の生き方の方向性を定めてくれた学校であると思っている。

竜一高、私にとって人生のどの部分にあるの？



高 17 回
富田(田上)晴美

祖父も竜一高の旧制中学時代の出身であることを思い出し同窓会名簿を紐解いた。あった、兼子秀賢、九回生に見つけ。東京美術学校の講師（図学）を退官後、交流のあった同窓生二人のお名前もありました。結局、私も体が弱かった為もあった、近くの竜一高を選ぶことになった。今も走馬灯の様に次々と高校時代の光景が蘇る。あの六十余の階段、遠くも無いのに時々、自転車に空気を入れて裏木戸から乗り出し、階段下の自転車

預所に停めては友達と階段を上ったこと。『一時間目何だっけ？』『幾何』二人で沈黙。最上段まで上り詰めたなら、その先生がピツタリ後ろに。『お早うございます』・『どつきり、噂しなくて良かったね』等々。松代の大地震で校庭脇の松林が大きく揺れた。講堂の中庭に佇む梅の古木の白い花がしつとりと香った。体育の時間、女子生徒だけ別メニューで体育（柔道）の先生に護身術を教えて頂いた。体育祭で踊ったオクラホマミキサーも懐かしい。当時の化学、物理の授業は階段教室だった。物理の選択は女子一人。二年生の時、先輩の教室に顔を出したら東北大の模試中。先生に休んだ生徒の分受けてみたらと勧められ、筆箱を取りに戻り、一緒に受験。結果、番付に乗った。先輩と東大模試を受けに上京した常磐線も思い出深い。確か土浦の球場に高校野球の応援に参加したことも。

卒業翌年、わが校は甲子園に臨み一回戦は沖繩の興南高校が対戦相手。勝ちましたが地元以外ほとんど沖繩の応援で戦い辛かったことでしょう。進学先の東京医科歯科大では、七〇年安保闘争の渦中、

一年間のストを乗り越え、学年全員留年を免れ卒業。そして、昭和五四年、龍ヶ崎で歯科医院を開業。竜一高を勧めて下さった恩師、数学の井坂弘文先生が地元の高校を出て良かったらうと喜んで下さった。

現在、先生は九五歳、二階にある歯科にお顔を見せてくださいます。兼子歯科は先生と運命共同体、いつまでもお元気で長生きしてくださいと感謝で一杯です。

結局、竜一高は私が社会に羽ばたく為の大事な一頁だったのでしょう。

竜一高、白幡同窓会、ますますの御発展をお祈り致しております。

竜一の記憶



高 27 回
板東 敬雄

私は「恩に報いる」と学んでまいりましたので、ご依頼を受け喜んで寄稿することにしたしました。しかしいわゆる「じゃない方 高校生」であつた私に熱い思い出を語ることはできませんので、記憶

にあるシーンを綴ることにいたしました。

それにしても、小学校から大学まで通学して先生のお姿と授業風景が思い浮かぶのは高校生の時が断トツであることに今回気づかされました。「マントル対流」「コギトエルゴスム我思う故に：」「千早振る：」、書道!!、竜ヶ崎一高は教養を身につける学び舎でした。

体育祭の高潔団応援団、13キロマラソン、文化祭における有形文化財に違いない講堂での甘味処の営業、サッカー仲間と国立で見たベッケンバウアーなど懐かしい記憶です。茨城国体での軟式野球部の優勝や文化祭での「ハッピーエンドの『春よ来い』」の演奏等は同級生の勇姿の記憶です。かつこよかったです。

と綴って参りましたが、何故か私の心に最も深く刻まれているのは一枚の手書きのポスターであります。それは体操部の壁にありました。当時世界最強の体操選手であつたアンドリアノフが「宿敵アンドリアノフ」の文字。誰が描いたのか、何というセンス。なぜそれを見たのか思い出せませんが、私はそのセンスに嫉妬さ

え覚えしました。それとも一つ、進路指導の面接で担任の先生は、私が書いた第一志望「東京大学」の東京と大学の間に「の」の字を書き入れました。これが私の好きな竜ヶ崎一高です。

私は今でもサツカーの配信に夢中になり、ディスク・ユニオンにリトルフットや大滝詠一のCDを買いに行く実年!であります。

終わりに、後輩の在校生の皆さんに申し上げることができるとしたら、竜ヶ崎一高生で幸せということと、一瞬一瞬を愛おしみ大事にしてくださいということですが。

私の原点



高 27 回
一 楯田 耕寿

「施せし情は人の為にならず、おのが心の慰めと知れ、我れ人にかけし恵は忘れても、人の恩をば長く忘るな」これは新渡戸稲造先生のことばです。

振り返ってみますと私の原点は「竜一高」にありました。竜一高の三年間では生涯の師

と仰ぐ先生方や先輩方、また人生を生き抜く強い力を得たものと思っております。たくさんの方々にご指導、ご支援をいただき、それを人生の糧としてまいりました。竜一高でよかったです。

私は硬式野球部に所属しておりました。毎日が緊張感と何とも言えぬ重圧感の中、毎日練習に明け暮れ泥だらけになつていた三年間でした。野球部には上下関係の厳しさがあり、二年生、三年生は神様という感じで、先輩方に遭遇すると所かまわず「ちは(わ)」の挨拶をする、先輩との会話は「はい」のみ、目を合わせははいけないなど、強烈な慣習に耐える日々でした。お昼休みにはグラウンド整備がありましたので一年生の時にはいつも早弁・早食いです。学校の授業は疲労のため居眠り(熟睡)が多く、先生はじめ皆さんにご迷惑をかけていたことでしょう。また現在の健康管理とは真逆で、練習中の水分補給は疲れるからとの理由でご法度の時代でもありました。今となつては全てが思い出です。

野球部や応援団、ブラバンの仲間たちとは、現在も同期会を行い、たわいもない雑談

に時間を忘れて大いに盛り上がったおります。最近では、自身の健康と年金の話題が多くなってきました。同期会では急逝された仲間への黙とうに始まり、中締めは、応援団の演舞による校歌・応援歌・闘魂こめでの3曲メドレーの大会唱です。「フレフレ竜高」「フレフレ竜高」で締めます。

私は旧東町(現在は稲敷市)に住んでおりますが、20数年前には同郷の白幡同窓生と親睦を深めることを目的に「東町白幡会」をみんなで立ち上げました。中でも恩師の岩崎貞夫先生の叙勲祝賀会を開催し大いに盛り上がったことが思い出されます。(残念ながらこの会は発展的解消をしています)

定年退職をした現在ではこれまでとは違う仕事に携わっておりますが、区長や民生委員などの役職を仰せつかり、地域活動に励んでいる昨今であります。また、野球部の先輩からゴルフコンペのお誘いを受けメンバーに加えていただき、毎回微妙な緊張感の中参加をさせていただいております。メンバーの中には恩師である永井薫先生が参加をされておられ、御年84歳とのことですが、お元気で若々しく、私

もうこうありがたいものだと思います。最後にありますが、白幡同窓会各位のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げます。

母校を誇りに



高 27 回
杉田美代子

その日は、テレビで千葉県の決勝戦があり、専大松戸の応援をしていました。見事な逆転勝ちで甲子園出場を決めた持丸監督のインタビュを拝見しました。その後、ポストに届いていた白幡同窓会からの封筒を開けると、思いもよらぬ「白幡」の原稿依頼。お断りできるのかな？と思いつながら「白幡」を拝読すると、なんと持丸監督の「育成功労賞」受賞の関連記事が。テレビの優勝インタビューも、白幡のインタビュ記事も、監督のお人柄が表われており、昔受けた、先生の熱い日本史の授業シーンも甦りました。

さがあふれました。前置きが長くなりましたが、こんな偶然の重なりで導かれ、原稿をお引き受けすることにいたしました。

高校生活の一番の思い出は、甲子園出場を目指した野球部の応援と、関東大会出場を目指したバレーボール部のマネージャーとしての仕事に燃えたことです。

初めて参加した野球の応援で、普段は物静かな女性の先輩が発した「ボロピー!!」の迫力に圧倒され、必死で応援用語を覚えめました。千葉県代表に勝たないと甲子園出場はなかった時代、真っ黒に日焼けしながら、三年間、涙を流しました。校歌、応援歌、闘魂こめては今でも歌えます。大学一年の時に、念願叶って甲子園で、地元の熱心なファンと共に母校の応援をするのができました。

どちらから誘ったのか記憶はありませんが、金谷さんと二人でバレー部のマネージャーになりました。先輩マネージャーのおかげで、二人とも未経験のバレーボールでしたが、楽しく仕事ができました。20年ぶりに関東大会出場を決めた、緑岡高校に大逆転勝利した試合の感動は、50

年近く経た今でも、熱く熱く甦ります。

これからも、竜ヶ崎一高出身であることを誇りに思いながら、日々を送っていききたいと思っています。

個性の源泉あふれる学び舎



高 42 回
山田 香織

1990年に卒業後、30数年の月日が経ったが、個性溢れる先生方や、50歳を過ぎた今でも交流の続く盟友たちとの青春の思い出は色褪せることなく、時に笑い話に、時に自らを律するきっかけとなっている。

私たちの世代は女性の入学比率が多かったらしく、当時、とある先生には「今年は女性をとりすぎた」と事あるごとに言われた。世が世なら問題発言だったかもしれないが、樂觀的な女性が多かったのか、それらを批判するどころか先生のモノマネネタに変

え、「今の日本社会とはこういうものだ」という理解にながっていったように思う。かくいう私も、現在業務の一翼でダイバーシティ推進を担当、ライフワークではつくば市近郊を中心に小学生から80歳の老若男女が所属する和太鼓団地で地域貢献や生涯学習に取り組んでいる今、その先生の発言は、今日の私にとって「ダイバーシティとは何か」を考える源泉となった。

また当時の私は「単に知識を測るだけの受験は無意味、よほど他に学ぶべきことがある」と考え、受験勉強は半ば放棄した。とある先生に追いかけて、「センター試験を受験しろ」と言われたものの、「センター試験を受けたら、なりたいたい自分になれるんですか？」と返答。学習面談も放棄し、のちに母親と先生だけで面談した時に「一体、どんな教育をしたらあいう子どもに育つんですか？」と笑いながら言われたらしい。しかしこのときの後悔は、社会人になった今でも学び続ける源泉となつていることは間違いない。

モラトリアムの時代だった私は「自分はどうありたいのか？」など、人との比較の中で自己否定と悩みの中にあったように思う。しかし古くは5歳から高校、今日に至るまでの友を中心に、多くの仲間、友に恵まれ、支えられた。

高校は人生の通り道。その道で寄り道をした道端にはたくさんの個性の源泉がある。そんな場が高校だと私は思っている。後輩の皆さんには大いに寄り道をして、個性を磨きつけてほしいと思う。

人生2周目があつたなら？

最近、映画やテレビなどで「人生2周目」といったストーリーを見かける。一度死んだのだから記憶を持ったまま、もう一度人生をやり直すというもので、つい自分ならどうするだろうと、つまらない妄想をしてしまう。そんな中で必ず「竜一にもう一度通うのか？」と逡巡する。

高校生活時代は「とても楽しかった」と「本当にしんど



高 42 回
前田 光俊

かった」という気持ちで半々で同居する。片道12キロの自転車通学、赤点を取らないようにするための徹夜のテスト勉強、怪我が多かった陸上部活動。どれを思い出しても、もう一度やってみたいとは思えない。ただ、楽しかったことも数えきれないほどあり、生徒会長として文化祭や球技会を、生徒会や委員のメンバーと、四苦八苦しながら運営したこと。最後まで入部を迷った陸上部では、速く走れるように練習し、成果がみえる上があったこと。茨城県の高校生海外派遣プログラムで、3年生の時にはニューヨークやボストンにまで行かせてもらったこと。どれもなかなか出来ない経験で、今でも自らの人生に活かされている。

結局この答えは出ないままだ。その方が楽しくていいのかもしれない。皆様も「人生記憶を持ったまま人生2周目があつたら？」を考えてみてください。意外とハマるかもしれません。

現在は某報道機関に勤務している。全国転勤を繰り返し、10回目の引っ越しで今は仙台の地で暮らしている。地方と本社の勤務の長さがちょうど

15年ずつとなった。その中の東京勤務のタイミングの時に、息子が竜一に入学し、3年間の取手地区の役員をやった。その間2回ほど白龍祭で豚汁販売も経験し、まさかまた母校の文化祭を手伝うとは思っていなかった。コロナ禍で3年生の時は中止になってしまい残念だったが、随分と楽しくやらせてもらった。娘は何故かレスリングの道に進み、頑張っている。私もつられて40歳から始めて12年になる。人生まだまだこれから。いろいろ挑戦すべきと思いい、今は思案している。



高 42 回
吉野久美子

心身ともに鍛えられたあの頃

中学生の頃は、バスケットボール部に所属していました。が、当時の竜一には女子のバスケ部が無く、陸上競技部に入りました。1年生の頃は、短距離。2年生では、円盤投げに取り組みました。身体の小さい私が大きく手足の長いライバル達と戦うためには、筋力で勝負するしかありません

んでした。顧問の山崎祐司先生は、現役の円盤投げの選手で、日本陸上競技選手権大会で優勝していたこともあり、体育館の2階には、次々と筋トレセットが揃いはじめ、陸上部は勿論のこと、雨の日には、野球部やサッカー部なども筋トレに励んでいました。夏休みには、「ちよつとアメリカに行ってくる」と本場のマッスルビーチと呼ばれるベニスビーチで、アーノルド・シュワルツェネッガーと一緒に練習したそう、で、「俺の方がすごかったぞ」と先生が写真を見せてくれたのを覚えています。そんなわけで、1年2年と筋トレに励みつつ、陸上部で汗を流していた私は、3年になり、将来について考える学年になりました。保健体育の先生になりたいと担任でもある山崎先生に相談したところ、「だったら体育大を目指せ。そのためには、運動で日本一になれ!」と言われ、あれこれと私に合いそうなスポーツを調べてくれました。

最初に連れていかれたのは、柔道部。受け身を数回練習したかと思ったら、すぐに技の練習。三日目には男子と練習試合をし、「これなら関東大会に行けるぞ」と柔道部

顧問の菅原先生に言われました。次に連れていかれたのが、東京にあるジムです。そこには、世界大会で2位になったベテランの選手がいて、「これなら全国大会を狙える!」ということになり、パワーリフティングに取り組むことになりました。それからは、朝・昼・放課後と練習し、近隣の一般の大会で経験を積み、陸上部仲間とともに練習に励みました。県南大会より校内予選の方が厳しいと言われた投てき陣や長距離メンバーが陸上で関東大会に出場。さらに、円盤投げでインターハイに出場した部長の栗山くんとともに、私も念願の全国高等学校パワーリフティング選手権大会に出場し「スクワット」で105.5kgの高校日本新記録を作って優勝することができました。(卒業アルバムOfYear表にも載せていただくことができました。)

頑張れるものがあり、努力を認めてくれる仲間や恩師に支えられ、日本一という結果を出すことができたこの3年間は、「文武両道」という竜一ならではの校風あってこそだと思えます。

「やるぞ」と言っていただけるほどマッスル男になりましたが、無事体育大に進むこともでき、先生になることができました。小免もと、小学校での講師を続けています。出会った子ども達には、努力することの大切さ、頑張れるものがあることの素晴らしさを伝えてきました。自分の体験や陸上部仲間、クラスの仲間の事を語るのも竜一での思い出が心に深く刻み込まれているからです。竜一で最初にできた友である後ろの席の豊嶋真千子ちゃんもまた、夢を叶え声優となり、今では誰もが耳にしたことのある「ちびまる子ちゃん」のお姉ちゃんとして、あの頃と変わらない声を画面越しに聞くことができます。

今まで、教え子ちゃん達には内緒にしてきた私の歳も、今回紙面を通して、公表させていただきます。「えーっ」と言われるのか「やっぱ」と言われるのかを目撃できないのは、ちよつぱり残念ではあります。が、後輩となったみなさんが、キラキラした高校生活を送り、同窓生・恩師のみな様がますます活躍されますことを祈念致します。

勉強の仕方を学ぶ

本橋 悠（高57回）

この寄稿のご依頼をいただき高校生活を思い返してみると、購買タツシユで買ったタクリムパーカ、白玉タクリムあんぱんは今もあるのかなとか、一番いい成績を取ったのはスポーツテストだったとか、球技会の練習するために早弁したなどとお恥ずかしい話ばかりです。

それでも友人たちに恵まれ、学校は楽しく、部活や友人とのお喋りのためにせっせと自転車走をこいで毎日通いました。その甲斐あってか3年生の終わりに担任の大野雅彦先生に職員室に呼ばれ、「皆勤だから卒業式の後、表彰あるから」と言われ、「ええ！？先生、私病院行つて遅刻してますよ？」「いいよ、いいよ！黙ってもらつとけ！」「えー！勉強できないのに、毎日学校来てるだけで表彰って恥ずかしいです」という十代の恥じらいを他所に、半ばおまけで皆勤賞をいただきました。また就職して気づいたのですが、茨城は高校野球が好きの方が多くと思います。それもそのはず、「野球応援」という行事が茨城だけと知って

納得しました。他県は勝ち進まない「野球応援」はなかったようです。体育館での応援の事前練習をして、試合の時は野球部、応援団、吹奏楽部、在校生、卒業生、地域の方々、ケンちゃん、フアイヤー……スタンドが一体となつてメガホンを持つて声を振り絞る応援は、青春そのもの。あの一体感や高揚感で愛校心が育まれたと思います。そして私も甲子園を観に行くくらいハマり、毎年熱闘甲子園を楽しみにしています。

こんな私ですが、受験も経験し、志の高い友人に励まされたお陰もあり教育学部に進学しました。しかし、何の因果か金融業界へ就職し、変化の早い世の中についていくのが精いっぱいではありませんが、どうにか働いております。働く上でも勉強はついて回るので、高校生当時にもらったやつておけばよかったと思うこともままあります。それでも勉強の仕方を身につけられたことは財産であり、刺激を与えてくれた友人、叱咤激励しご指導くださった先生方のお陰です。

また最後に、この機会のお声をかけてくださった大野先生に感謝するとともに、白幡

同窓生皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

素敵な思い出

上村（平山）由季（高57回）

七月のある休日、家でゆっくり過ごしていると電話がかかってきました。画面を見ると恩師の名前。電話に出ると、恩師はまず他愛のない会話をしました。その後、改まってこの電話の本題となるミッシンを伝えてきたのです。

「今月中に白幡の原稿を書いてくれる人を見つけること」そして、私はこのミッシンを達成することができず、恐れ多くも、今こうして高校時代に思いをはせることになりました。

高校時代のことを思い返すと、まず部活動が頭に浮かびます。私は弓道部に所属していました。今はどうか分かりませんが、当時は道場がなく主に外での活動でした。夏は林の木陰に助けられました。冬は寒さとの戦いでした。部活の始めに枝や落ち葉を集め、火を焚いてかじかむ手を温めながら弓を引いたのを今でも覚えています。林の方に飛んでしまった矢をみんなで見つけたのもいい思い出です。

インターハイ出場を目指し、仲間とともに夜まで練習した日々はとても貴重な時間だったと今も思います。

次は白龍祭です。特に3年の時の模擬店「ホーンテッド・フレンジパーク」は、この原稿を書くにあたり助けを求めた友人たちからたくさん話題にありました。目玉はジェットコースター。当時は人気だった番組に似せて、ジェットコースターに乗ってお化け屋敷に入る。このスリルさが人気を呼び、当日は大盛況でした。準備期間も含め、友人たちと協力しみんなで作った文化祭はとても楽しかった思い出です。もちろん、ジェットコースターを企画・立案・制作とかなり張り切っていた恩師の姿も含めて。

他にも沖縄への修学旅行やクラス対抗の球技大会、名物先生の書道の授業や野球応援、購買のパン、そして卒業旅行で行ったデイズニールンDなど、書ききれないほどの思い出があります。そのどれもが、当時は当たり前のよう過ぎていた日々のこと。ですが今ではとても輝いて見える素敵な思い出です。

私は今、教師をしています。私がかかわる児童生徒たちが、将来同じように学校時代のことを振り返ってくれるよう、笑顔であふれる思い出をたくさん作ってあげられる教師でありたいと思います。

原点

内藤 大地（高57回）

私の竜ヶ崎一高での高校生活は、まさに部活動一色でした。硬式野球部に所属し、毎日泥だらけのユニフォーム姿で白球を追い、自分自身と野球に向き合う毎日でした。白幡台で過ごした三年間は、重圧と緊張に押しつぶされそうになるとも苦しい毎日でした。周囲から求められる結果を残すことができず、悩むことも多々ありました。しかし、その過程のなかで自分の未熟さに気付く、甘さをなくし、練習に取り組むことで、困難に打ち勝ち、人生を力強く生き抜くための礎となる経験を積むことができました。大学進学後や社会人となった現在も一つ一つの出来事をふと夢に見ることがあります。その都度自分を見つめなおすことに繋がり、私の原点となっています。このような経験を積ませてくださった当時の硬式野球部関係者の皆様には大変

感謝しています。

現在、私は、牛久市の公立中学校に保健体育科の教諭として勤務しています。昨年度は、三学年を担任し、三年間を共に過ごした生徒を卒業生として送り出すことができたのは感無量でした。本校の卒業生だけでなく、これまでの教員生活のなかで関わった生徒の中から竜ヶ崎一高に進学し、活躍している様子を聞くのはとても励みになります。また、私は、現在野球部の顧問をしています。自身の中学時代と比較し、近年は野球人口が著しく減少し、自チームでチームを組むことができず市内で合同チームを組んで活動をしています。今後は、部活動も地域へ移行する過渡期を迎えています。そんななかで、自分が指導者の立場になり、教師の声掛けの大切さや指導することの難しさを感じつつも、当時の経験が現在の自分に生かされているということを実感しています。現在の中学生は、急激な社会の変化の中、将来予測が困難な時代を生活しています。このような時代背景のなかで、生涯学び続け、どんな環境においても「答えのない問題」に最善解を導くことが

できる資質・能力を高めていくことが求められています。そのために、私は、仲間との関わりを大切にし、様々な人と協働して学び、課題を解決していくことでお互いを大切な存在として認識し、よりよい人間関係を築けるように職務を行っています。今後も日本の将来を担う生徒たちを支援していくために自己研鑽を積んでいきたいと思います。最後にありますが、コロナ禍もあり、多くの人と疎遠になっていましたが、この執筆を機に同窓生と再会し、近況を報告し合えるのを期待しています。今後の白幡同窓生各位の益々のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

私の財産

野木村 (石川) 温子 (高 57 回)

大学一年生の時に受けた授業で、今でも覚えている言葉があります。「学生のうちに、何でもいい、何かに思いきりのめり込んで、打ち込んでみて下さい。勉強でも恋愛でもバイトでも何でもいい、何かにのめり込んでみて下さい。そんなことができるのは今しかないから。きつとそれが人生の財産になります。」私は

この言葉を実践できるのは、大学生でも中学生でもなく、高校生の 3 年間なのではないか、と思います。

竜一で過ごした 3 年間、のめり込むという経験はたくさんありました。やはり一つは部活です。私は陸上部に入部し、マネージャーを務めていました。「高校生になったらマネージャーになつてみたい！」なんていうミイハーな動機で始まりましたが、大会では部員の一生懸命に走る姿に声が枯れるまで応援の声をかけ続け、嬉し涙も悔し涙も一緒に流しました。今でもテレビなどで陸上の大会や駅伝を目にすると、あの頃の思い出が蘇ってきます。

他にも思い出はいろいろとありますが、やはり思い出されるのは受験勉強。進路ごとにクラスが分かれる 3 年生は、クラスメイトがライバルであり、テストや模試の結果が出る度に刺激し合っていました。3 年生の秋頃、勉強に對するガソリンが切れていたのか、授業中にウトウトとしていたのですが、そんな時「気を抜いてる場合じゃないよ」と声をかけてくれたり分からないところを教え合ったり、そんな仲間恵まれまし

た。あのクラスでなかったら、あの時間がなかったら私は受験を乗り越えられなかったと思います。第一志望の試験を終え、もうだめだと落ち込む私を励まして下さったり、合格を知った時には私以上に喜んでくれた担任の先生とは今でもメールや年賀状で連絡を取っています。

なことからこれを書いている。高校時代の思い出といえば、なかなか理解のできなかった勉強達を始め、お弁当の時間の友人との他愛もない会話、文化祭、放課後の部活動やたくさん通った飛龍館、色々と溢れてくるが、まとまらないので、同じくらい印象に残っている通学について書く。

楽々ときどき後悔



高 67 回
関 (高橋) 葵有子

昨年ドライブ中に偶然母校の前を通りかかった。一緒にいた友人には「ここ私に通った高校なんだよね」「階段急すぎ」と話しながら、自分もこの階段を登ることはないだろうなと思っていた。しかし、縁とは不思議なもので、今年の 6 月には職場で、「白龍祭で餅を売るのだが参加しないか」と声をかけていただき、階段を登った。そしてひょん

か。午後 6 時半頃に終了し帰宅する私は顔にぶち当たる虫に辟易していた。3 年生になると自然に部活終わりに飛龍館に寄るようになった。そして 8 時くらいまで勉強し帰路に着くと、虫が全然顔に当たらない。次の日もその次の日も。しかし 7 時くらいに帰ると確かに虫はいる。今こそなぜかと先生に聞いてみれば良かったが、あの頃は「8 時過ぎは虫いないじゃんラッキー!」くらいにしか思わなかったことが悔やまれる。

竜ヶ崎一高での出会いは自分を形作る一部であり、思い出であり、今も新しい縁を繋いでくれる大切な場所だ。何

より今でも連絡を取り合うことが出来る友人に出会えたことはかけがえの無い宝物である。

また、朝早くから夜遅くまで開放していただいた飛龍館を始め、質問しに行くといつでも笑顔で教えてくださった先生方には感謝しても足りない。大変ご迷惑をおかけしましたが、友人と受けた補講さえもキラキラとした青春の思い出となっている。

散文となつてしまいが大変申し訳ないが、本当に充実した3年間だったということは文に込めたい。

末筆となつてしまったが、ご指導してくださった先生方をはじめ、竜ヶ崎一高の益々の発展をお祈り申し上げ結びの言葉としたい。

縁に感謝



高 67 回
大野 修平

竜ヶ崎一高での高校生活は、私の人生における根であり、未来でもあります。

曾祖父の代から竜ヶ崎一高と縁があった我が家にとつ

て、竜一に通うことは物心ついた頃からの漠然とした目標でした。念願叶い憧れの学舎に通い始めた私が直面したのは、十五年分の燃え尽き症候群。入学当初の私を知る人は、お世辞にも真面目な生徒だとは思わなかったことでしょう。上昇志向を失った私は、高校生活で何をなすべきか宙ぶらりんのまま日々を過ごしていました。

それでも私は、学友との出逢いに恵まれていました。勉強も部活も中途半端な私でしたが、学校に通うのが本当に、本当に楽しかったのです。夏休みなんかいらないと本気で思っていました。授業も休み時間も放課後も、あの頃自分を巻き巻いていた時間の全てが、代え難い財産であり、尊い遺産として私の中に浮かんています。

誇れるものが少ない私が唯一大切にしていたことが「尽くすこと」です。時に人のために、時に自分のために人事を尽くすことが、因果応報の理に沿って自らの力になることを信じていました。何よりもやってよかったと思うのが、クラス会の幹事です。友人と企画、季節や行事にかこつけて事あるごとにクラス会を催

していました。もちろん自分が楽しむ目的もありましたが、学級の和が作られる瞬間、人と人との関係が丸くなる時間に貢献できることが嬉しかったです。そんな経験が今の自分の根幹を担っている気がします。

私は現在、茨城県西の高校で国語の教鞭をとっております。生徒たちになぜ先生になったのかと聞かれる度に出す答えは「高校生活が最高だったから」です。高校生活に目標を見出せなかった私が、学校を生業の場を選んだように、人生は可能性に溢れていることを伝えたいと思います。そしていつの日か、今度は大切なことを教える側として、竜ヶ崎一高の坂道を登りたいです。

出会いに感謝忘れず



高 67 回
栗原(中島) まどか

「白幡」への執筆依頼をいただき、当時の写真などを見ながら竜ヶ崎一高での生活を振り返りました。同じ中学から竜ヶ崎一高に進学したのはわずか4人で、不安と緊張を

抱えたままスタートした高校生活でした。ですが、ふたを開けてみれば一生の友人と出会い、充実した3年間を過ごすことができました。

毎日のように飛龍館に通い詰めたこと、ラグビーの合宿で来日していたニュージールランドの高校生をホストファミリーとして受け入れたこと、東日本大震災の復興支援として実施された「ギズナ強化プロジェクト」で2週間カナダに行ったこと、台風で沖縄のホテルに缶詰めになった修学旅行、ダンス部署のチーフとして奔走した文化祭、応援団のチアとして参加した野球応援：他にも数え切れないほどの思い出があります。悔しい思いをしたことも、大変だったことも今となっては懐かし、高校時代の友人と会えばそんな思い出話に花を咲かせています。

竜ヶ崎一高を卒業してから、あつという間に8年の年月がたちました。大学を卒業してからは新聞社に就職し、生まれ育った地元を応援したいという気持ちに胸に、記者として働いています。2022年には長男を出産し、今は子どもが目まぐるしい成長に必死についていく毎日です。この

8年間、壁にぶつかることもたくさんありましたが、竜ヶ崎一高で出会った友人や先輩、後輩、先生方に支えられ、なんとか乗り越えてきました。

この原稿が掲載される白幡が発行される頃、4年ぶりの同窓会が予定されています。今はSNS等で高校時代の友人の近況を知ることが出来ますが、実際に会って話す機会はコロナ禍もあり減少していたので、社会人になりさまざまな経験をした同級生に会うのが本当に楽しみです。これからも高校時代のつながりを大切に、感謝を忘れず、少しずつでも恩返しできるように過ごしていきたいと思います。末筆ではございますが、竜ヶ崎一高に関わられる皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

母校と私の人生

自転車との出会い



高 44 回
中川 敬補

「あつた、あつた。良かった」とホッとした合格発表。

第一志望だったので、本当にうれしかった。自宅の取手市戸頭から竜一高まで、自転車で見に行った。片道約20^分の道のり。小貝川に沿うように、田んぼ道を通り、藤代、双葉を経由して、約1時間30分かった。行きはドキドキ。「合格していなかったら、この道は、帰り道が最後になるなあ」。そんなことを思いながら、竜一高を目指していたことを思い出す。

その帰り道に、事故が起きた。双葉の住宅街を走行していた時、停車していた車が突然走り出し、正面衝突した。車のスピードはそんなに速いかなかった。自分の体が自動車のボンネットに乗り上げ、体が軽く吹き飛ばされただけで、ケガはなかった。運転手の女性が慌てて近寄り、「大丈夫ですか、ケガはない？ 救急車を呼んだほうが」と必死で問いかけてくる。私は合格した喜びから痛くも痒くもなかった。「大丈夫です。なんともないです」と答えた。「病院で念のため検査だけでも」と言われたが合格を早く家族に伝えたい私は「大丈夫ですから」と半ば強引に走り去った。

自宅に着いたその後、中学

校から連絡が。「今日、自転車事故にあったでしょう」と担任から電話があった。運転手が私の制服の名札を確認していた。中学校に連絡をしていた。運転手の女性からは、お詫びを兼ねて入学祝いを届けていただいた。波乱の自転車生活のスタートだった。

小学校から続いていた剣道。入学後は、迷いなく剣道部に入った。授業を終え、部活を終え、帰宅するのは毎日午後8時過ぎだった。体力的に辛いとは感じなかったが、無性に腹が減った。出される夕飯では足りない。必ず締めめにラーメンか焼きそばを食べていた。母親は食事の支度が大変だったと思う。

2年生になる頃には、約1時間で高校に到着していた。そうになると、もっと早く走りたいという欲求が湧いてきた。その年の1990年9月には宇都宮で世界自転車選手権ロードレース大会が開かれていた。時速70^{km}も出る競技用の自転車、大勢の選手が蛇のように連なって走る映像に心を奪われた。競技用自転車(ロードレーサー)が欲しくなった。剣道部はやめて、自転車にのめり込んだ。冬休みには2年F組の同級生4人

(西塚、山脇、中沢)で箱根まで2泊3日でサイクリング旅行に出かけた。復路は遠回りして、箱根↓厚木(1泊)↓川崎(フェリー)↓木更津↓取手。走行距離は360^{km}を超えていた。

その後、自転車に詳しい西塚君に自転車屋を紹介してもらった。我孫子にある「三連勝 シクロウネ」。競技自転車専門店、競輪用のフレームも作っている有名な店だった。自分の体の色々な部分を測定して、自転車を作ってくれる。世界で自分だけの自転車だ。価格は約15万円。自分の貯金を全部使って購入した。その自転車は今まで乗っていたサイクリング用とは違って、タイヤは細く、車体も軽い。早く走るために、無駄なものは一切ついていない。高校までは40分で到着した。

大学は自転車部があるとこそしか受験しなかった。一浪後、すぐ自転車部に入部した。就職先も自転車に関わる職業として、スポーツ新聞社に入社した。

自宅と高校の往復40キロの毎日、自分の将来を導いてくれた。その通学途中には、自転車パンクしたり、チェーンが切れたりトラブル

ルもあった。2時間くらい遅刻した日もあった。雨の日はカッパを着てもずぶ濡れになり、制服が濡れたまま、授業を受ける日もあった。

今は転職して、夕刊紙に勤務しているが、自分の人生を決めてくれたのが高校時代の自転車通学であることは間違いなく。もし、自転車で合格発表を見に行かなかったら、今の自分はなかった。本当に貴重な3年間だった。

(日刊現代編集局勤務)

決意



高 33 回
塚本 裕

「りゅういち」私はこの響きが大好きだ。私は小学校、中学校と剣道を続けてきた。「りゅういち」に入部して「りゅういち」で剣道をする事が私の夢であった。

父も竜一出身で私も当然のように竜一に行くものだと思っていた。が、困難が立ちをはだかる。私の学力不足だ。中学校の担任に、このままでは竜一は厳しいぞ、と言われ、ない頭を酷使し、何とか入学することができた。

入学して早速、剣道部に入部し剣道を楽しもうと思っていたが、待っていたのは厳しい現実であった。中学校とは違ったルールのもと、高校剣道の洗礼を受け、十数人いた同級生も卒業時には三人になっていた。

ここで、人生初の「忍耐」と言う言葉を体感した。先輩方に今では口に出せないような稽古をしていただき、当時は、いつ部活をやめようかと考えていたが、今となっては良い思い出になっている。

高校卒業後は、都内の大学に進学し、四年間しっかりと遊び、無事に卒業し就職することができた。

遅くなったが、私の実家は龍ヶ崎市内で甘納豆の製造・卸を生業にしており、私は三代目である。

家業は継ぎたくなかったのだが、結局は甘納豆屋を継いで日々奮闘している。コロナで廃業も考える位の大打撃を受けたが、周りの皆様のご支援により、何とか生き残ることができた。

三十歳でサラリーマン生活にピリオドを打ち、家業をついで三十数年が過ぎた。気が付くと還暦を越えており、いつの間にかいろいろな

役職を引き受けるようになっていた。

その中で一番大きな役が、「龍ヶ崎市商工会会長」である。

会長の打診を受けた時、「はい、やります」と二つ返事をしました。

これは、龍ヶ崎で生まれ、龍ヶ崎で育ち、竜一を卒業し、龍ヶ崎で商売をし、龍ヶ崎が大好きだからだ。

現在、龍ヶ崎の街中の商店は、不景気、後継者不足等々、いろいろな要因があるが、元気がない。

しかし、龍ヶ崎の街中を元気にする策はあると思っている。旧態依然とした考えでなく、市、県、国の力を借りながら、街中に昔の賑わいを取り戻す為に、思い切った行動を取っていかうと思っている。

私の願いは、竜一を卒業した若い方々が龍ヶ崎、又はそれぞれの地元に戻って、創業、起業して、地元を元気にしてもらおう事だ。

「寄らば大樹の陰」も良いと思うが、「鶏口牛後」が好きた。

これから竜一を卒業する皆様には、地元を元気にするような活躍をしてもらいたい。そして、世界に羽ばたいて活

躍できるような人材になっていただければ嬉しい限りである。

これからの決意を胸に龍ヶ崎を元気にする取り組みを進めていきたい。

（龍ヶ崎市商工会会長）

多様な価値観を受け入れる



高 39 回
渡辺 孝治

私は龍ヶ崎市で育ち、竜ヶ崎一高へ入学しました。旧制中学を含めると祖父、父や叔父、私、甥も同窓です。私は勉強もせずだらだら学校に通うだけの劣等生でしたが、友人と過ごす日々は楽しいものでした。3年生では文理クラスに進みました。C組はとても雰囲気良く、勉強もイベントもしっかり取り組むクラスでした。そんな恵まれた環境の中で、私は進路も目標も決まらず、気持ちは落ち着きませんでした。

夏前に指の怪我で腱が断裂し、筑波大学附属病院で手術を受けました。入院中に病棟実習の医学生が付いたため、医学部について様々な話を伺いました。学生さんは「どん

な実習も最初は気持ち悪くても、慣れてしまえば大丈夫だ」と教えてくれました。話が進むうちに引き込まれてしまい、無謀にも医学部に進もうと決めました。学費面から国立大しか選べません。文理クラスなので微積分や物理の授業はありません。これらは教科書と参考書を買って自習・独学。国語・社会系科目は共通一次試験対策以外放棄したので、もともと悪かった定期試験の成績はどん底です。普通に考えればおかしい奴だし、お先真っ暗な状況でした。そんな異質な私でも学校外でクラスの友人達と一緒に勉強することも多く、孤独感はありませんでした。担任でスキー愛好家の井坂勝男先生に進路相談すると「新潟大を受けると良いぞ。スキーなんか始めたら、もう最高にいい所だぞ」とアドバイスされます。もちろん試験に受かるはずもなく、卒業後も受験勉強は続きます。でも友人の誰一人「そんなの無理だ」とも言わず、時々励ましに来てくれるしました。それだけで私にはもう十分でした。その後、新潟大を受験して運良く合格。井坂先生、当時はご指導を疑って申し訳ござい

ませんでした。良い大学でしたし、スキーも楽しかったです。遠回りしましたが、C組で過ごせた事と友人たちに感謝しています。

大学卒業後、長年の勤務医生活を経て、現在は自分のクリニックで診療をしております。それ以外に戸市内3つの基幹病院で内視鏡検査・治療、外来診療をする他、校医、産業医、胃がん内視鏡検診委員、地域の健康講座、何故か少年院の視察委員にも携わっています。独立しても自分の時間を削る毎日ですが、「診療を通じて、関わる人を幸せにすること」が出来るよう努力を続けています。

竜一には多様な価値観を受け入れる風土があると思います。3年前に卒業した甥も個人的でしたが、とても良い高校生活を送りました。彼を認め共に過ごしてくれた同級生、御指導頂いた先生方が素晴らしいのでしよう。関わった皆様に感謝申し上げます。現在の在校生もきっと全員が素晴らしい素質を持っていてと確信しています。皆様は高校生活が充実し、それに続く未来の希望が叶うことを願っております。

（桜の郷クリニック院長）

トピック①

竜ヶ崎一高から宇宙へ



高 50 回
中嶋 大

2023年9月7日8時42分11秒、種子島宇宙センターからHIIAロケット47号機が打ち上げられ、X線天文衛星XRISM（クリズム）が地球周回軌道に投入されました。打ち上げ当日は射点から半径3kmの範囲が立入禁止になるため、私は前日までいた大型ロケット組立棟を離れ、打ち上げの瞬間を射点から3.1kmの展望公園で迎えました。轟音とともにまばゆい光を放ちながらほんの数分で視界から消えていったロケット、そして残されたロケット雲を眺めながら、私は胸が一杯になり、衛星誕生までのおよそ16年の道のりが蘇りました。

私は1998年の春に竜ヶ崎一高を卒業して以降、天文学や宇宙物理学に興味を持ち、エックス線天文学という特殊な光で天体を観測する何やら面白そうな分野があることを知りました。京都大



(XRISM 搭載 CCD カメラ)

学大学院でその研究室に進み、様々な天体現象を研究しました。2007年に大学院を卒業してから現在にいたるまで、我々がすむ天の川銀河の中心部にある巨大な分子雲や、地球の1000京倍(1億倍をさらに100億倍した大きさ)以上もの強い重力をもつ天体などを観測してきました。

例えば、天の川銀河の中心には太陽の400万倍もの質量をもつブラックホールという天体があり、まわりの物質全てを飲み込んでいます。特に大きなガスを飲み込んだ時に放たれるエックス線の輝きを捉えたりしました。これらの天体がある場所は太陽系の遙か彼方で、人間がたどりつくことは未来永劫に不可能と言えます。そんな遠くにある天体で起きている現象を自分が発見できることの喜びは、何にも代えることの出来ないものです。



(H-IIA ロケット 47 号機打ち上げ時の写真。三菱重工業提供)

こうした観測と発見をこれからも続けるためには最新鋭のカメラが必要ですが、天体からやってくるエックス線は地球の大気で吸収されてしまい、地上まで届きません。そのためカメラを大気圏外に持ち出す必要があります。そこで、観測と並行して行っているのが、天文衛星に搭載するカメラの開発研究です。今回打ち上がったXRISMに搭載されたCCDカメラは、ボスドク(博士研究員)時代からその開発に携わったものです。私にとっては我が子のような存在で、打ち上げ数日前に衛星をこの目で最後に見た瞬間は、子供が巣立つていく時はこういうものかと感慨深くなりました(実際の子供はまだ中学生と小学生。巣立つにはまだ数年の猶予があります)。

この原稿を書いているタイミングはまだXRISM衛星自体の健全性を確認している段階で、カメラの電源を入れるのは今から数週間後です。これから産声を上げるであろう我が子の活躍に期待を膨らませていきます。

私立大学で教鞭をとりつつも自分がやりたい研究を最大限に楽しめていることは大変ありがたいことです。竜ヶ崎一高で学んだ経験が財産になっていることを感じます。これから一つでも多く天文学の面白い話題を提供することで、同じような興味を持ってくれる若者が、特に故郷の学生から現れることを願っています。

(関東学院大学准教授

JAXA 特任准教授兼任)



夜空に輝く神秘的な光

トピック②

「永井正」写真展 開催

このたび、令和5年度龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル郷土作家展として写真家の永井正(高27回)氏の写真展「野鳥とオーロラ」に魅せられて」が龍ヶ崎市歴史民俗資料館で開催されました。

これまで長く北海道道東、沖縄県石垣島を中心に野生動物の写真撮影を行ってきた永井氏ですが、昨年9月と今年3月にカナダイエローナイフで幻想的なオーロラの写真撮影に成功しました。

来館者は幻想的なオーロラの写真やこれまでのフォトコンテスト受賞作品を含めて、48の作品に魅了されました。

永井氏のコメント

野鳥撮影を始めたのは、北海道に単身赴任していた故池澤昭夫(高17回)氏に案内され、タンチョウの美しい姿に魅了されたことが始まりでした。これからは野鳥やオーロラの魅力を発信していきたいと考えています。



四重唱(ピックカメラ賞)

コンテスト受賞歴等

- 2012年 第1回 JAL タンチョウフォトコンテスト「JAL 賞」
- 2013年 第2回 JAL タンチョウフォトコンテスト「日本野鳥の会賞」
- 2014年 交通新聞社発刊「旅の手帳 2014 年 7 月号」 撞舞の写真掲載
- 2015年 「茨城の一流店大図鑑 2015」 撞舞の写真掲載
- 2016年 日本郵便切手「関東さくら紀行〜茨城県〜」 さくらの名所 10 選 般若院しだれ桜の写真掲載
- 2017年 第4回 JAL タンチョウフォトコンテスト「ピックカメラ賞」

白幡同窓会ホームページもご覧ください

● 記事のご紹介



2020年、竜一高は創立120周年を迎えました。記念式典の様子、学校の沿革などが応援サイトからご覧いただけます。（画像をクリックください）

近々のニュースです。トップページの見出しからリンクしています。

あの暑い夏の時を思い出す。そして今も人生の応援歌として心に残る詩です。応援団による動画もご覧いただけます。

多感な青春時代をこの白幡台で過ごし、やがて優れた芸術家として飛躍された方々、あるいは竜ヶ崎一高に深く関わられた芸術家の方々の事蹟を紹介しています。

同窓会会報のバックナンバーがご覧いただけます。

OB・OGの皆様の高校時代の思い出やエピソードが綴られています。

● 読者プレゼント応募要領

ホームページの「お問い合わせ」画面を開き必要事項を入力・選択の上、「送信する」ボタンを押してください。同窓会のメールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com に送信されます。「お問い合わせ」は下の QR コードからも直接アクセスできます。

白幡同窓会 - postmail

お問い合わせフォーム

1. 当サイトに関する質問や感想などをお受けしています。
2. 以下のフォームより、必要事項を入力の上送信してください。内容欄に卒業年次(全日制29回卒、定時551年度卒、等)を記入いただければ幸いです。

お名前 *		氏名を入力してください。
メールアドレス *	(再度入力)	メールアドレスを入力してください。
問合せ種別	☒ 読者プレゼント応募(ポットとソーサー付きカップセット) ☐ 読者プレゼント応募(お茶壺) ☐ 住所変更 ☐ ご相談 ☐ ご意見 ☐ その他	応募ラジオボタンを一つ選択してください。
問合せ内容		卒業年または卒業回、郵便番号及び住所を入力してください。入力漏れは無効になります。当選者様には郵送させていただきます。
送信する		最後に送信するボタンを押してください。

白幡同窓会ホームページを覗いてみよう！

URL : <http://www.shirahata.sakura.ne.jp>

ホームページ運営委員会



トップページ



お問い合わせ

進路状況

○受験環境の変化・競争緩和

18 歳人口は 1992 年の 205 万人をピークに 2022 年度には 109 万人まで減少し、大学志願者数も減少基調にあります。その一方で、国立・公立大学の学部・学科の増設や私立大学の新規開校などにより入学定員は増加してきました。その結果、入試倍率は年々下がり、国立大学では首都圏などの都市部にある一部の大学を除き、特に地方ではすでに 2 倍台前半の大学もあります。私立大学においても、難関・有名大学においては高い倍率を維持しているものの、定員を割り込んでいる大学も多数出てくるようになりました。

・進行する大学入試改革

3 年目を迎えた大学入学共通テストは、前年度大きく落ち込んだ数学の平均点が大幅に上がったため、全体の平均点はアップしました。しかし、共通テストでは知識の理解の質を問う問題だけでなく、思考力、判断力、表現力等を発揮して解答する問題を重視する問題作成が行われ、セン

ター試験の平均点と比べると低く推移しています。

選抜方式にも大きな変化が見られます。募集定員の大半を占めるのは依然として一般選抜ですが、近年は学校推薦型選抜・総合型選抜の割合が増加傾向にあり、私立大学全体では学校推薦型・総合型選抜 (44・8%) の合計が一般選抜 (42・7%) を上回っています。国立大学、私立大学ともに志願者数、合格者数は前年度より増加傾向となりました。

○75 回生の奮闘

令和 5 年 3 月に卒業した 75 回生は、入学時から大きな影響を受け続けました。コロナ禍です。入学式翌日から実質 2 ヶ月間の自宅学習を余儀なくされました。学校全体で学習教材の郵送や授業のネット配信を取り入れるなど、それまで当たり前であった学校生活を送れない中でも、生徒が学習活動に取り組める環境作りを進めました。この時期に自分の学習スタイルや学習習慣を試行錯誤しながら身に付けられた生徒たちが、その後の学習活動で実力をより高めることや部活動等との両立に成功し、最終的に志望校への合格を手にしたように思われます。

令和 5 年 3 月 進路状況一覧

◆国立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
東北大	2		2
秋田大	1		1
山形大	1		1
福島大	1		1
茨城大	51	2	53
筑波大	13		13
宇都宮大	1		1
埼玉大	2		2
千葉大	3		3
東京大	1		1
東京学芸大	2		2
東京工業大	1		1
東京海洋大	1		1
東京農工大	1		1
新潟大		1	1
山梨大	1		1
信州大	2	1	3
静岡大	2		2
琉球大	1		1
合計	87	4	91

◆主要私立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
慶応義塾大		1	1
早稲田大	11	3	14
上智大	3		3
東京理大	16		16
学習院大	11		11
明治大	19	4	23
青山学院大	3	1	4
立教大	23		23
中央大	19	2	21
法政大	19	5	24
国際基督教大	1		1
成蹊大	6	3	9
成城大	5	3	8
日本大	61	5	66
東洋大	54	5	59
駒澤大	17		17
専修大	18		18
千葉工大	74	2	76
獨協大	23	4	27
武蔵野大	10		10
芝浦工大	8	1	9
東京電機大	35	1	36
東京農大	25	3	28
大東文化大	3		3
東海大	11		11
國學院大	9	1	10
麗澤大	13		13
文教大	12		12
共立女子大	8		8
目白大	3		3
東邦大	7	1	8
立正大	5		5
順天堂大	10		10
国士館大	7	1	8
北里大	12		12
帝京大	3		3
昭和女子大	3	1	4
日本女子大	6		6
その他	124	8	132
合計	697	55	752

◆公立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
茨城県立医科大	11		11
群馬県立女子大	1		1
埼玉県立大	2		2
東京都立大	5		5
横浜市立大	2		2
福井県立大	1		1
都留文科大	1		1
合計	23	0	23
国立大 合計	110	4	114

◆大学校合格者数

大学校名	現役	過年	合計
防衛医科大学校	1		1
水産大学校	1		1
合計	2	0	2

75 回生の入学時の定員は、附属中学校の開設に伴い 240 名と 1 クラス分減少しました。このことが進路実績に影響するのではないかとという声も聞かれました。しかし、結果は例年を上回るものでした。拡大傾向にある推薦型・総合型選抜では、本校でも割合的には増加し、多くの生徒が合格を手に入れました。基礎学力だけでなく、小論文や面接など表現力・対話力、また第一志望への強い志望動機と明確な目的意識があったからこそその結果といえるでしょう。国立大学には 47% に相当する 110 名の生徒が合格しました。その中には、東京大学への合格 1 名も含まれ、現

役合格は平成 23 年以来的ことです。学習活動だけでなく部活動にも熱心に取り組み、まさに『文武両道』を実践していた生徒といえるでしょう。一方で、旧帝大をはじめとする難関国立大学では苦戦を強いられました。記述力を中心とした学力を、これらの大学が求めるレベルまで高められるよう、さらに指導力を高め続けることの必要性を痛感いたしました。

私立大学の合格実績も、これまで難しいと考えられていた難関大学への合格者数も例年より増加していました。

○チャレンジする姿勢

76 回生が挑む 2024 年度入試は、現行の教育課程で実施される最後の入試となり、また、(進路指導部 井川 裕司)

す。センター試験の最終年には、コロナ禍の影響もあり安全志向が強まりました。竜ヶ崎一高ではその影響は限定的ではありましたが、今回も同様の現象が十分考えられます。幸いにも、近年の竜ヶ崎一高には、最難関である東京大学や京都大学などへの受験者は継続して存在し、合格ラインに到達できる学力を持つ生徒が増えつつあります。令和 4 年度入試では京都大学、令和 5 年度入試では東京大学への現役合格を果たしました。志望校合格にむけた確かな学力と、チャレンジする姿勢を育てる指導を心がけていきたいと思います。

附属中学校

3 年生が、学習・生活両面において附属中を引っ張っています。さくらサイエンスで本校に訪れた 6 力国の高校生に英語で交流を行うなど、国際感覚を磨く姿は、さすがグローバルな力をもった附属中生だと感じました。

また、探究学習では、龍ヶ崎市内のフィールドワークで把握した課題について下級生と共に追究する姿が見られます。下級生の考えを生かしつつ、課題解決に向けて積極的

に動いていく 3 年生の姿勢を見て、2 年生と 1 年生は学んでいます。

2 年生は、附属中での昨年度の生活を経て、楽しみながら中堅学年として学習や日々の生活を充実させています。

1 年生は、昨年の学校説明会や学校見学を通して、附属中学校に強い憧れを持って入学してきた生徒が多く、毎日

月の飛龍祭に向けた練習にも熱を帯びてきました。自らの成長に絆を設けず、二兎も三兎も追ってほしいと思います。

地域課題解決

一昨年度から取り組んでいる、龍ヶ崎市の町おこしを目的とした課題解決学習。今年度も学年の枠を超えて精力的に活動しています。

既に 4 月と 5 月に龍ヶ崎市内の商店街のフィールドワークを通して、龍ヶ崎市の課題について把握しました。課題解決に向けて、縦割りグループ毎に手立てを検討しつつ、コンサルタントから助言をもらいながら学習に取り組んでいます。グループの企画の中で、代表の 6 グループが、高校生を対象とした県の事業である IBARAKI ドリームパスに応募しています。

また、7 月に開催された龍ヶ崎市の伝統的な行事「撞舞」について探究しているグループが SNS で情報発信しました。撞舞当日には YouTube でライブ配信し、多くの方から高評価をいただきました。

龍ヶ崎市平和推進事業

龍ヶ崎市では、平和推進事業として市内の中学生を、原爆が投下された広島市と長崎市（昨年度は広島市、今年度

は長崎市）に派遣しています。関係の方々のご尽力により、本校からも 3 年生 2 名が派遣されることとなりました。

生徒達は、事前学習会を経て長崎市に向かうことになっていましたが、台風上陸のため、長崎派遣は中止となってしまいました。実施時には、平和記念式典に参加したり、被災地を見学したりするなど、戦争と平和について考える機会となるはずでした。中止となったことは残念でしたが、附属中 3 年生の学ぶ姿勢は、同じ使節団の中学生に大きな影響を与えていると報告を受けています。

職場体験活動

夏休みに近隣の事業所のご協力をいただき、2 年生と 3 年生の職場体験活動を行いました。地域の社会で活躍する大人の方々からたくさん



市内病院にて

校外での活躍（丸数字は学年）
龍ヶ崎中学校総合体育大会

○軟式野球

優勝

○ソフトテニス

女子団体 3 位

女子個人③大山・入田 7 位

○柔道 90 kg 超級 ③戸丸 2 位

55 kg 級 ②向吉 2 位

○陸上 県南大会

女子 1500 m ③坂本 8 位

男子 3000 m ③松田 6 位

○水泳 県南大会

女子バタフライ

100 m ③高橋 2 位

200 m ③高橋 2 位

男子 1500 m 自由形 ②亀岡 4 位

400 m ②亀岡 5 位

県大会出場

①新田②亀岡③高橋

男子 1500 m 自由形 ②亀岡 3 位

女子バタフライ

200 m ③高橋 5 位

関東大会出場

②亀岡③高橋

○NHK 杯全国中学校放送コ

ンテスト茨城県大会

アナウンス部門

朗読部門

②西村 2 位

②藤田 4 位

③森 1 位

③齋藤 2 位

②田口 3 位

○英語プレゼンテーション

フォーラム龍ヶ崎市大会
優秀賞

③飯島 岩田 桜井

高見 茂木

○弘法大師奉賛高野山競書大

会

特選

③森 ②小川

○全日本中学生水の作文コン

クール

県審査優秀賞

③園田

（附属中教頭 遠藤 弘太郎）



軟式野球部



ソフトテニス新人戦

部活動の主な成績

(令和5年4月～9月)

ソフトテニス部

男子の青山(2年)・矢崎(3年)ペア、女子の福島・白川(共に3年)ペアが千葉県白子町で行われた関東大会に出場した。共に初戦敗退となったが、男子は節目となる10大会連続、女子は3年連続での関東大会出場となった。

また、福島・白川ペアは2年ぶりとなるインターハイ出場も果たした。2回戦で新潟県3位のペアにストレート勝ちし、本校女子では平成13年以来20年ぶりの勝利をおさめた。3回戦では開催地・北海道の優勝ペアに敗れたが、3年間の集大成にふさわしい、堂々としたプレーを見せてくれた。このような結果を残すことが出来たのも、いつも支えてくださる皆様のおかげと感謝申し上げます。男女とも、更なる活躍が出来るよう精進してまいります。今後とも、温かなご支援をよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、関東大会・インターハイ出場に際しまして白幡同窓会、ソフトテニス部卒業生の方々に

多大なるご支援を頂きましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

(顧問 及川 潤)



書道部

◎部長・副部長コンビ面目躍如
今年度前期一番の成果は、山下部長の全高総文祭における本校初の入賞と、山下、安藤の三年生二人が、ともに文部科学大臣賞を受賞するという快挙が挙げられます。また、一、二年生もそれに続けとばかり精進を重ね、順調に芽を伸ばしておりますので、今後

の活躍を期待しているところ
です。

皆様方にはこれからもご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

紙面の都合もあり、詳細なご報告は出来ませんが、公募展での主な成績は左記の通りです。

◎第四十七回全国高等学校総合文化祭かごしま大会

菅公賞・特別賞

三年 山下未結

◎第二十四回高校生国際美術展

文部科学大臣賞

三年 山下未結

秀作賞

二年 照山由歩



◎第二十回安芸全国書展高校生大会

高知県知事賞

三年 山下未結

◎第五十二回学芸書道全国展

文部科学大臣賞

三年 安藤羽菜

硯心会会長賞

三年 安藤羽菜

◎第三十九回高円宮杯日本武道館書道大展開覧会

日本武道館理事長賞

二年 森下咲良

◎日本経済新聞社賞

一年 池田美那

二年 森下咲良

三年 安藤羽菜

四年 安藤羽菜

五年 安藤羽菜

六年 安藤羽菜

七年 安藤羽菜

八年 安藤羽菜

九年 安藤羽菜

十年 安藤羽菜

十一年 安藤羽菜

十二年 安藤羽菜

十三年 安藤羽菜

十四年 安藤羽菜

十五年 安藤羽菜

十六年 安藤羽菜

十七年 安藤羽菜

十八年 安藤羽菜

十九年 安藤羽菜

二十年 安藤羽菜

二十一年 安藤羽菜

二十二年 安藤羽菜

二十三年 安藤羽菜

二十四年 安藤羽菜

二十五年 安藤羽菜

射撃部

昨年度は、藤田琴子が1年生ながら関東選抜大会(11月・埼玉県長瀬町)で4位に入賞し、全国選抜大会(3月・福井県福井市)に出場した。本校としては、4年ぶりの全国選抜大会出場であった。今年度の関東大会(6月・埼玉県長瀬町)・全国高校選手権大会(8月・広島県安芸太田町)では、惜しくも団体・個人ともに入賞を逃した。しかし、附属中からの内進生の活躍もあり、チームの競技力が向上しているため、全国大会入賞

に向けてさらに精進していきたい。

最後になりますが、射撃部がこのように活動できるのは同窓会の皆様のご支援の賜物です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(顧問 小野 雅史)



放送委員会

放送委員会は今年度から県の放送講習会や大会等へ参加している。

六月十四日(水)にNHK水戸放送局で行われた第四十回NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城県大会では、朗読部門で附属中3年森彩乃が一位、同3年齋藤康瑛が二位、同2年田口晴彩が三位、アナ



（顧問 石川 瑤子）

ウンス部門で同 2 年西村龍星が二位、同 2 年藤田英悟が四位となり、全員が初出場ながら全国大会出場を決めた。特に朗読部門でトップ 3 を本校生で独占したことは快挙である。全国大会では惜しくも入賞に届かなかったが、今後が期待される。

委員会ながらこのように活動できるのは同窓会の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

STEM 競技のオリンピック

「FIRST GLOBAL Challenge 2023」日本代表として出場！

本校の生徒 18 名が日本代表として、10 月 7 日（土）～ 10 日（火）にシンガポールで開催された STEM 競技のオリンピック「FIRST GLOBAL Challenge 2023」に参加し、その中で、高校 1 年の中村優乃助君、谷川友太君、吉住唯花さん、武藤未紘さん、吉田篤矢君が、シンガポールに渡航し、出場しました。

この大会は、今回世界 191 のカ国と地域が出場した、世界最大規模の科学、技術、工学、数学の 4 分野の力を競うイベントです。

本大会は、持続可能な世界づくりに向け、ロボット競技と英語でのプロジェクト発表などを行い、総合点を競う大会であり、ロボットを操作し、原子に見立てたボールを運んだり、かごに投げ入れたりすることで得点を争う競技のほか、再生エネルギーに関する論文作成、SNS を使ったテーマについての情報発信チャレンジ、国際交流の分野でスコアを競いました。

例年より準備期間が短く、圧倒的に不利な状況の中、この 18 名の生徒が必死に頑張り、自分たちの力で、教科学習では行わないロボットや課題を、一つ一つ完成させていきました。

大会では 191 カ国中 112 位となり、期待した結果が得られませんでした。しかし、自力で成し遂げたという自信と、191 カ国の本校と同じ「未来のリーダー」が集まる中で、非常に多くの友人を作れたことは、参加した本人のみならず、竜ヶ崎一高・附属中学校全体にとって、非常に有益だったと感じております。

この大会をとおして、様々な国の STEM 大会のオファーを受けてきました。本校が掲げるグローバル、デジタルに強い生徒の育成を、今後も推し進めてまいります。

最後に、今回の大会出場に際し、白幡同窓会からは奨励金をいただきまして誠にありがとうございました。（教頭 宮内 和広）



令和5年度定通大会

本校定時制は、県内13校ある定時制の高校の中で9番目の在籍者数という、どちらかというと小規模の学校です。その小回りを活かし、生徒一人一人が目が行き届く温かい教育ができていると実感しております。そんな定時制ですが、今年4月に17人の新一年生を迎え、大変にぎやかなスタートを切りました。

6月の白龍祭では、定時制は多目的室でバザーを行いました。みんなで多くのものを持ち寄り、それぞれのように入るか、部屋の装飾はどうするかなど、生徒会を中心に学年の枠を越え、定時制の生徒全員で準備にあたりました。企画は大変好評を博し、用意したグッズは完売しました。一人一人が自分の役割を持ち、楽しそうにバザーを運営している姿は印象的でした。

また、同じ6月に全県の定時制・通信制高校が参加する球技大会「定通大会」に参加しています。生徒は、2週間かけて熱心に練習しており、その結果、バスケットボールで見事全県第3位という結果を得ることができました。



(教頭 宮内 和広)

夏季休業中には、インターンシップ活動もあり希望する2年生が職業体験する機会がありました。参加者は生き生きと活動しており、学校生活とまた違った側面を見せてくれました。進学希望者は、専門学校のAO入試の合格を嬉しそうに報告してくれておりました。就職希望者は、企業見学を行い、9月の採用試験に向け、面接の指導を受け、将来の目標に向かって努力しています。

これから、今年度後半に向けて、全員が進級、卒業できるように、生徒に寄り添ってまいります。

卓球OB会の解散報告

会計残金を卓球部に寄付

卓球OB会の杉野卓男(高20回)様から同窓会の会報委員会に問い合わせがあり、その内容は、令和5年7月に亡くなられた副会長の石塚隆夫(高8回)様から依頼されたものでした。

①卓球OB会は7年前に解散したこと、この報告
②OB会の残高が残っているものを処理してほしい

以上2つのことを会報でその旨を伝えてもらえないかということでした。

長い伝統を誇るOB会でもあり、この度の会報に解散報告を掲載することにしました。

OB会員の高齢化が最大の解散理由ということですが、これまでのOB会は、土屋オーブン卓球大会や現役卓球部員との交流試合などを開催するとともに、竜一高卓球部に卓球台やボールを寄贈してきました。

この解散にあたり、OB会の会計残高のすべてを竜一高卓球部に寄付することになりましたことを報告します。

旧制服の展示ケースを設置

企画委員会

山崎 睦(高31回)

卒業生には懐かしい思い出がたくさんある制服が2023年3月の卒業生を最後に新しい制服に変わりました。白幡同窓会では愛着がある制服を長く記憶に残しておくために「旧制服の展示ケース」を白幡会館の玄関に設置しました。



男子の制服は創立100周年記念誌の中で第一回卒業生集合写真でも着用しているもので123年間。

女子の制服は竜ヶ崎一高に女子が初めて入学した昭和26年(1951年)4月の入学式から72年間。

餅コーナーに長蛇の列

白龍祭委員会

大野 雅之(高30回)

4年ぶりに白龍祭が一般公開され、白幡同窓会は、6月3日(土)、焼餅コーナーを出店し、20人近いOB OGの卒業生が駆けつけてくれました。



生徒はもちろん家族や地域の皆様にも愛され続けた制服。旧制服を着ている生徒の姿を見ることが出来ませんが、白幡会館玄関に展示してある制服を見ることで、学生時代の記憶を呼び起こす機会になれば幸いに思います。

新制服の竜ヶ崎一高生が文武両道の精神を引き継ぎ一層躍進していくことに期待しています。

開店当初はあいにくの雨の中でしたが、バーベキューコンロで焼いたお餅を磯辺巻き、きな粉、お汁粉の3種類で販売したところ早くから大行列！



用意したお餅が次々と飛ぶように売れていきました。
なお、この日の売り上げは42,400円！全て竜一生徒会に寄付しました！
来年度も白龍祭一般公開日に実施予定です。

計 報

元竜ヶ崎第一高等学校校長で元白幡同窓会長の野口武太郎（旧制中40回）様が令和5年10月10日に亡くなられました。白幡同窓会校外幹事の横田久（高28回）様が令和5年4月3日に亡くなられました。

謹んで哀悼の意を捧げますとともにご冥福をお祈りいたします。

読者プレゼント①

ポットとソーサー付きカップセットを1名に贈呈

このたび、陶芸家でオリジナル校章入り「白萩釉縞鶴香」の作製者である植竹敏（高27回）氏から同窓会に、読者プレゼント品として、「ポットとソーサー付きカップセット」の提供がありました。抽選により1名の方にプレゼントすることになりました。

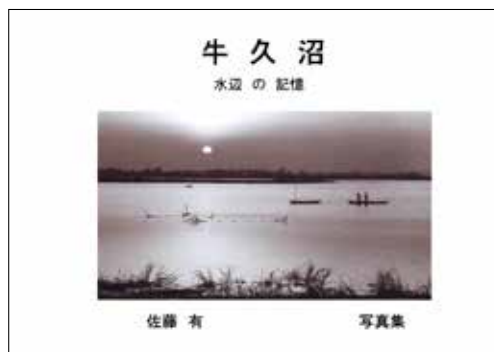


読者プレゼント②

写真集「牛久沼」を2名に贈呈

会報32号で紹介しました写真家佐藤有（高8回）氏の写真集「牛久沼」を2名の方にプレゼントします。

このたび、佐藤氏から同窓会に読者プレゼント品としてこの写真集の提供がありました。



読者プレゼントの応募方法

会報P18の応募要領に従い、令和6年2月末日までに、白幡同窓会HPから申し込んでください。
抽選結果は令和6年3月末日に同窓会HPで発表する予定です。

協力金のスマホ決済手順について

- ①スマートフォン等にスマートフォン決済アプリをインストールし、必要事項を登録します。（アプリで納付に必要な金額をチャージします。）
- ②アプリの請求書払いを選択し、振込用紙に印字されたバーコードを読み込みます。
- ③払込金額を確認し、支払手続きを行います。
- ④支払手続きが完了すると、支払完了画面が表示されます。



お詫び

昨年度の会報第34号に同封いたしました「令和四年度白幡同窓会協力金納入者芳名簿」につきまして、芳名簿作成時のデータ処理に不備があり、協力金を納入いただいたにもかかわらず、芳名簿に掲載されないという重大な誤りが生じましたこと心からお詫び申し上げます。

編集後記

新たに令和四年度の芳名簿を作成し、会報第35号に同封いたしましたのでご確認いただければ幸いです。
このようなことが再び起こらないよう細心の注意を払いながら編集作業を進めてまいりますので、今後とも竜ヶ崎一高及び白幡同窓会へのご理解とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

新企画として今回から「恩師を訪ねて」のコーナーを設けました。第一回の恩師は大野英二先生です。当時を思い出しながら懐かしんだ方も大勢いらしたのではないのでしょうか。

同窓生の皆様から「恩師」の推薦がありましたら、同窓会HPの「お問い合わせフォーム」からお願いします。
会報編集委員

服部 俊夫（高25回）
関口 広行（高26回）
山田 實（高26回）
倉持 正男（高27回）
篠塚 文男（高28回）
川口 浩己（高29回）
有川 保（高33回）
霜村 裕通（高33回）
磯山 佳美（高34回）
岩崎 卓士（高37回）